

令和3年度市政懇談会記録調書

【地区】	那珂湊中学区
【日時】	令和3年7月6日(火) 午前10時00分～午前11時30分
【場所】	那珂湊コミュニティセンター
【参加人数】	31人

目次

那珂湊中学区.....	1
事前質問.....	2
1 おさかな市場周辺市道・臨港道路及び万衛門川の環境整備について（湊本町自治会）	2
2 湊中部地区市道 2263 号線におけるU字溝専用蓋の敷設について（幸町自治会） 2	
3 湊公園ふれあい館脇の防災倉庫の保管物資の見える化について（龍之口町自治会）	3
4 海門橋アーチ部の補鋼桁内の歪みと歩道橋の揺れ対策について（龍之口町自治会）	3
5 柳沢地区道路の拡張工事について（柳沢美田多自治会）	4
懇談質問.....	4
1 自治会活動の ICT 化について（龍之口町自治会）	4
1-2 再質問（龍之口町自治会）	5
2 敬老会について（湊中学区地域を住みよくする会）	6
3 コミュニティ・スクールについて（釈迦町自治会）	7
4 食育について（柳沢美田多自治会）	8
5 漁港周辺の環境美化について（湊中学区地域を住みよくする会）	9
6 地域の防災について（龍之口町自治会）	10
7 那珂川緊急治水対策及び県道沿いの雑草繁茂について（関戸町自治会）	11
8 記念事業について（湊中学区地域を住みよくする会）	12
市長まとめ.....	12
教育長まとめ.....	13

事前質問

1 おさかな市場周辺市道・臨港道路及び万衛門川の環境整備について（湊本町自治会）

おさかな市場周辺の市道，臨港道路，万衛門川等について，それぞれの適正管理や事業者への指導について，行政の管轄と対応について教示願いたい。

（回答 水産課，道路管理課，河川課）

市道につきましては，駐車禁止時の違法駐車に関する指導及び取締りについては，ひたちなか警察署が実施機関となります。路肩へのポール等工作物の無断設置や発泡スチロールの市道への散乱等通行の妨げになることについては，市道路管理課で適正に指導を行い，安全に努めてまいります。

臨港道路につきましては，漁港内の施設になりますので，漁港を管理する茨城県が管理者となります。市の関係部署は水産課です。

茨城県は，おさかな市場の全店舗で組織する「那珂湊市場前活性化対策協議会」に対し，フォークリフトの安全走行や歩道部分の適正な利用など，臨港道路の秩序ある利用について指導をしております。

また，県では，臨港道路や県営駐車場等の秩序ある利用と安全対策，環境維持を図るため，おさかな市場の各店舗と市及び県を構成員とする「那珂湊漁港臨港道路等利用協議会」を平成28年2月25日に設置し，この中でも何度も協議が行われているところです。

水産課としましても，県及び那珂湊漁港臨港道路等利用協議会を通じて，臨港道路の適正な管理及び利用について各店舗へ要請を行ってまいります。

万衛門川につきましては，市河川課で維持管理を行っており，年2回の浚渫を中心に適宜除草やゴミの回収などを行い健全な環境維持に努めております。また，河川上の使用については，ひたちなか市下水道条例に基づき個人や企業からの申請により占用許可を行っております。

万衛門川上の発泡スチロール集積所等につきましては，占用許可と異なる使用形態となつていられると思われまますので，地元自治会や関係団体と協力しながら改善に努めてまいります。

2 湊中部地区市道 2263 号線における U 字溝専用蓋の敷設について（幸町自治会）

U字溝の蓋を専用蓋に交換するとともに未敷設の場所に専用の蓋の敷設を要望する。

（回答 道路管理課）

この路線のU字溝には，規格サイズが異なるU字溝が混在しており，統一した製品による整備は困難です。蓋の欠損などの場合についても，同一製品により整備された路線の方が交換等もスムーズですが，路線全体の改良工事を行うには時間がかかるため，危険な個所を優先に適宜，蓋を設置してまいります。

3 湊公園ふれあい館脇の防災倉庫の保管物資の見える化について（龍之口町自治会）

湊公園ふれあい館の市・自主防災会の防災倉庫にある保管物品リストの共有化を行いました。また、夏・冬や夜間における避難に必要な物品について教示願いたい。

（回答 生活安全課）

・湊公園ふれあい館の市及び自主防災会の防災倉庫にある保管物品リストの共有化について

市の防災倉庫の備蓄品につきましては、主なものとして、アルファ米 300 食、500ml のペットボトル水 720 本、LP ガス式発電機 1 台、毛布 100 枚、非常用トイレ 200 枚、マスク 1,000 枚等を備蓄しております（詳細は別紙を参照ください）。

また、各自治会の備蓄品リストにつきましては、訓練等の機会を活用し、自治会間で情報共有をしていただきたいと思います。

・夏季、冬季や夜間における避難に必要な物品について

夏季の避難につきましては、熱中症予防のため、こまめな水分摂取が不可欠です。また、汗とともに失われた電解質（ナトリウムなど）もあわせて摂取する必要があるため、飲料水に加え、スポーツ飲料や経口補水液を準備してください。また、冷涼グッズや、濡らしたタオルを首から下げるといった、気化熱の利用が有効です。

冬季の避難につきましては、寒さを想定した対策を講じる必要があるため、防寒具、毛布、カイロ、カセットコンロ（燃料のボンベ）などを準備してください。冬季は空気が乾燥し、ストーブなどで火気を使う機会も増えることから、火災も発生しやすくなりますので、避難の前に火の元の確認をお願いします。

夜間の避難につきましては、見通しが悪くなり危険も伴いますので、十分な明かりのとれる懐中電灯、ランタンなどを準備ください。また、できるだけ単独行動を避け、隣近所の人と一緒に行動するようにしてください。転倒や転落の危険性があるので、水路や川沿い、狭い道は避け、広い道を選ぶことも大切です。

4 海門橋アーチ部の補鋼桁内の歪みと歩道橋の揺れ対策について（龍之口町自治会）

海門橋は完成後 62 年が経過し劣化が進んでいる。早急な対策を関係機関に要請願いたい。

（回答 道路管理課）

海門橋は県水戸土木事務所道路管理課が管理する橋梁です。

道路法に基づく橋梁の点検は令和元年度に実施され、その結果により必要な修繕を行っており、今年度についてはアーチ部分の再塗装を実施する予定とのことです。

水戸土木事務所には、今回のご意見を受け、地元から適切な維持管理がされるよう要望が

ある旨を伝えるとともに、市からも改めて適切な管理を要請いたしました。

5 柳沢地区道路の拡張工事について（柳沢美田多自治会）

柳沢保育園前から湊線の踏切に至る市道湊1級6号線は、幅員が狭く坂の途中にあるカーブで交通事故が多発している。人身事故の懸念もあるので早急な拡幅整備を要請する。

（回答 道路建設課）

柳沢美田多地区の道路整備につきましては、現在、県道那珂湊那珂線からふるさと農道までの未整備区間を重要路線に位置付け、国の補助事業を活用し、関係機関と協議しながら、整備を進めているところであります。

今後、市道湊1級6号線の事業化を検討するため、この地区の交通体系や利便性・公益性・安全性等を総合的に勘案し、地元自治会と意見交換等の協議を進めてまいります。

懇談質問

1 自治会活動のICT化について（龍之口町自治会）

自治会活動のICT化推進事業について、今年度から始まった同事業には140万円の予算が組まれているが、これは自治会活動の中での役員間での連絡や会員への通知、行事や慶事などの連絡等を補助するための事業と考える。補助額が1自治会あたり年間5万円で令和7年までに3回申請ができるとのことだが、初期導入費用だけでも30万から50万かかる上に、ランニングコストも通信費やソフトウェアライセンス等、相当かかると思われる、各自治会で工面できるものではない。

自治会活動のICT化を進めるのであれば、市若しくは自治会連合会等にホストシステムを置く形をとり、各自治会のフォローを行うなどしたほうが効率的ではないか。また、学校のICT化が進んでいるのであれば、それを共有させてもらい学校と地域の交流を促進するなど検討できないか。

（市長回答）

自治会活動のICT化については、自治会連合会を通じていろいろと研修やご相談をさせていただいているところです。

一つ、その中でイメージしているのが、つくば市で行っている活動で、「自治会活動ソフト」というものがあります。それを使うと、様々な連絡や役員間の情報共有、それから資料の添付等々がやれるようになると聞いております。

今回、補助金3回申請でということですが、パソコンに関してどの程度のグレードのものがいいのかということはありませんけれども、今、ギガスクールが進んでいる中で、タブレットの価格がものすごく低くなってきております。いわゆるパソコンだけではなくて、タブレットやスマホなど、ホストとなる端末があれば、ある程度運用できるのではないかと思います。

ます。

しかしながら、一つひとつそろえたところで多少の増額が必要だというようなことがありましたら、それはもちろん検討させていただこうと思います。それと今回、手上げ方式となります。各自治会は83ありますけれども、取り組めるところからまず取り組んでいただきたいというような話をさせていただいております。

その中で、私の方でお願いしているのは、ぜひ自治会の中で詳しい方がいらっしゃったらIT担当にさせていただいて、市の研修の方によこしていただければありがたいと思います。そういった中で、各自治会に取り組んでいただいて、うちの自治会はこのような形でやったら、ある程度、役員間の省力化に繋がったよとか事例を発表していただいて、これだったらうちもできるかなというような形で取り組みを広げていくというようなイメージを持っております。

実際、学校からの連絡事項もこの7月から全てメールになりました。その受けは、ほとんどの奥様方、また私も保護者ですけども、自分が持っているスマホです。ですので、そういったハード機器、今回補助させていただいておりますけれども、いろんな時代の流れとして、そういうような環境がすでに整ってきているということもありますので、必要最小限、ハード部分は必要だとは思いますが、ある程度受けられる人たちは、かなり社会の中で増えてきているのではないかなというふうな認識です。

また、自治会の役員のなり手が少ないという話をいろいろなところでお聞きしています。一方で、ご婦人方や現職の方は夜の会合にはいけないとか、インターネットでいろいろなメールを送ったりであれば手伝えるなど、割とそのようなお話もありますので、IT化を進めることで、若い世代がこれだったら自治会の役員として活動ができるんじゃないかと、そのような流れになってくると、自治会の役員のなり手不足ということにも少し光が見えてくると思っています。

いずれにいたしましても、補助金の額も含めて、皆さんが導入していくということに関して、必要な額がもし足りないということであれば増も検討していきますけれども、IT化というものを全て市の方でお膳立てするというのもなかなか財政的には厳しいというところもありますので、まずは役員間のやりとりなど最低限をそろえていただくことについては、現行制度の中で対応できるかと思っておりますので、ご理解いただきたいと思います。

1-2 再質問（龍之口町自治会）

おっしゃるとおり、受け手は各自で持っているタブレットとかスマホとかパソコンでアクセスすることができる環境ができていますが、ホスト端末及びプラットフォームの整備に費用がかかります。それを整備してもらえれば、そこに各自治会がアクセスして自分の自治会のものを作っていくことができる。そういったところを整理してもらえないかなと思う。その方が予算面でも効率的かと考える。

(市長回答)

自治会ごとの運用をするのか、共通のプラットフォームを持つのか、どちらの方がやりやすいのかは、その自治会の規模であったり、できるところからやってきましょうというようなところもあるため、担当課にも検討させようと思っています。

5年間というふうに今回、設定させていただいたのも、なるだけ速やかに83自治会多くの自治会に参加をいただきたいというふうに考えてのことなので、それである程度の共通理解ができてくるようなことであれば、例えば、自治会連合会の方で一つホストとしてやるなども考えていけるかなと思います。今後の検討課題とさせていただきたいと思います。

2 敬老会について（湊中学区地域を住みよくする会）

敬老会について、昨年度、市の方で敬老会の補助金の支出方法をいろいろ検討され、本年度からそれが適用される。

高齢者を敬う趣旨には当然賛同するが、高齢化に伴う対象者の増により経費もかさんできている。本市は全体で、約6,300万円と県内で最も多い。県内44自治体のうち15自治体では敬老会を実施していない。

高齢化社会に向かい、ますます必要な支出額は多くなるため、敬老会は止めてその部分を子供たちや子育て世代のために回してはどうか。

(市長回答)

敬老会に関しては、昨年1年間かけまして自治会連合会の方からも出席いただきまして「あり方検討会」というのを進めてまいりまして、提案書をいただいております。

一つが、補助金の見直しです。今までは、対象の高齢者1人当たりの補助金を支出しておりましたが、敬老会に出席する方、しない方がいる中で、補助金の使い方として公平性に欠けるのではないかという監査の指摘をずっと受けていたというところもありまして、ある程度の補助金としての公平性を保つような方法に見直すということで考えをまとめさせていただいたところです。

その中でひたちなか市の敬老会は、地域のやり方というのがあって、市が後援させていただいているという形はありますが、それぞれの自治会が実施主体となっただき、それぞれの地域に根差したいろいろなおもてなしや感謝の仕方があるというように感じ、非常に私は大切にしたいと思います。

一方で、日立市や水戸市は、市が主催で1箇所が集まっただきでやっているところもあります。どちらがいいかという話がありますが、市敬老会の検討委員会の中では、まずは今のスタイルというものを維持した上で、できる改善、改革というものを目指すべきだという答申をいただいているところです。まずは、自治会が主体となって敬老会をやっていくと答申書にも記載していただいているところを私としては尊重をさせていただきたいと思っています。

その上で、会館でやっているところ、学校の体育館でやっているところ、ホテルを使ってやっているところ様々でありますけども、それぞれでやっている今までのやり方をこれからもある程度はできるような状況を見据えて、補助金ややり方をいくつかの種類をつくって進めているところです。

細かい説明は、それぞれの自治会に高齢福祉課が行ってご案内、若しくは補助金の申請の時にお手伝いをするというふうに言っておりますので、お尋ねいただければと思います。また、今年は初年度ですので、不都合な点がありましたら、若干変えさせていただくということも踏まえて、まずはその補助金のあり方から考えさせていただこうと思っています。

それと、実は提言書の中で77歳喜寿のお祝い金を廃止してはどうかとあります。他市町村でも、基本的にやっていないところが多いわけです。水戸市、日立市、笠間市、那珂市でも77歳のお祝いをやっておりません。それから、敬老会の対象年齢を75歳から少し上げたらどうかというようなご提言をいただいているところでもあります。

提言の内容としては尊重させていただきますので、検討はしていきますが、やはり地域に根づいた敬老会でありますので、それぞれの地域の思いというものもあると思いますので、この二つに関しては、地域の方々としっかり話をしながら、先を見据えた中で考えていきたいと思っています。

全体の人口でいうとやはり73歳あたりが1歳の中に1,400人ぐらいいらっしゃるということを見ると、75歳以上が対象ですので、これからどんどん増えていくということは、まさにご指摘のとおりです。お祝い金を抜いた額で、ひたちなか市は、今対象者が2万1,000人のところ6,300万円というのはそのとおりの情報です。水戸市は4万人対象で2,900万円。日立市は1万8,000人が対象者で1,700万円というところで、水戸市の倍以上、日立市の3倍まではいかないと、そういうような額をひたちなか市は敬老会にかけているということは事実でございます。

予算をかけているからどうだということは、また別の議論だと思いますが、いずれにいたしましても、地域の自治会がやってきた地域に根差した伝統的なお祝い事ですので、しっかり地域の皆さん方と話し合った上で、ただ、現実も見据えながらしっかりと考えていき、まず、監査の方から指摘されている補助金のあり方ということだけは、早急に改めさせていただくということで進めております。

継続して議論をしていきたいというふうに思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

3 コミュニティ・スクールについて（釈迦町自治会）

旧那珂湊地区は海岸線が財産である。月1回程度、海岸線の清掃活動を行い漂着ごみなどの回収をしているが、若いお母さん方がお子さんを連れて来てくれて、終わった後に海岸で観察活動をしている。

主に自治会活動は高齢者が中心になっている中、環境問題には若い世代も興味を持って

いると感じる。海は、世界と繋がっており生命の起源である。旧那珂湊地区のコミュニティ・スクールにおいては、海に視点を置いて課外活動等を実施してほしい。

教育長の方から、地域を創る子供という話があったが、そういう体験活動みたいなものを対面で実施することも ICT 化と同様に大事なことだと考える。コミュニティ・スクールの中では、地域の財産を活用することが望ましいと思うので考えていただきたい。

(教育長回答)

大変、貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。先ほどのコミュニティ・スクールもそうですし、今年、学校でスタートした SDGs の取組みがあります。

おっしゃるとおり、自分のことだけではなく、自分の身の回り、自分の地域、世界、そういうところまで子供たちがどんどん調べたり、実際に実践したり、協働したりしていく必要は非常にあるなと考えております。

SDGs の取組みでもターゲットを出しながらやっているのですが、ぜひ、私の方からもいただいたご意見については学校の方に伝えていきたいと思います。子供たちは、総合的な学習の中で、特に 3・4 年生は自分の地域の周りを調べて、その地域の課題を見つけて何が起こっていて何が問題なのかを知って、そして自分たちは何ができるかを考え実践していくのがこれからの教育です。

ぜひ皆さんもコミュニティ・スクールの中で、課題として出させていただいて、学校の方でもいろんなプログラムなり、また、教育活動なりを授業の中でどう組み込んでいくかを考えてもらえるように話題にさせていただければと思います。貴重なご意見ありがとうございます。

4 食育について (柳沢美田多自治会)

長野県千曲市では、学校給食をパンと肉から米と野菜と魚に変えて、多くの教育的成果をあげた。ぜひ、地域コミュニティの中で農業に注目して、子供たちに米づくりや水田の生き物等に関心を持ってもらい、体験を交えた食育に取り組んでほしい。

(教育長回答)

海と畑に恵まれていることは、ひたちなか市の特色で、特に旧那珂湊地区では子供たちも魚が好きだとか、お米は日本一だとか作文に書くぐらい非常にプライドを持っています。そういうところを総合的な学習の中でいろいろと興味を広げていき、自分達の周りが素晴らしい環境であることを知り、そして、自分に何ができるかというような所まで考えが及ぶよう学校でも取り組んでいきたいと思います。農業や漁業もこれからはいろいろと変わっていくことが多いと思うが、そういった部分を引っ張っていける子供たちを育てていきたいと思っています。

(市長補足)

ちなみに、文科省に最優秀教師の賞があるのですが、昨年2人ひたちなか市の教員が受賞している。1人は栄養教諭で食育の取組みが評価されての受賞となっています。その方は今年から美乃浜学園に着任しています。市としても食育には力を入れていきたいと思っています。

5 漁港周辺の環境美化について（湊中学区地域を住みよくする会）

海岸クリーン運動に関して昨年、今年は中止になったが、その場合、ゴミはどうなるのかを教えてほしい。それと、那珂湊漁港周辺は、大部分が県の管轄の区域となっているが、ひたちなか市環境を良くする会の有志が県に届け出を出して清掃活動を行ったことがある。地域の自治会にも協力要請して参加してもらった。漁港周辺の環境美化に関して、市は県に任せているのか。

(市長回答)

今年の海岸クリーン運動については、雨天のため中止とさせていただいた。昨年はコロナによる中止で、その前の年は私も参加しごみ拾いを行った記憶がございます。昨年は、市の職員での海岸清掃活動を複数回行っております。

そこに、若い奥様方で構成する LOVE アースデーという NPO 法人と一緒に市の職員とタイミングを合わせてくれて海岸清掃活動をしたりしています。そういうような、市プラス市民団体、若しくは有志の方々とかということで複数回これまで清掃活動を行っております。併せて聞いているのはロータリークラブの方々でしたり、阿字ヶ浦の海開きのタイミングでは社会福祉協議会プラス社会福祉事業者の連絡協議会の皆様方が毎年清掃活動を行っております。全ては把握できていませんが、様々な主体が海岸清掃活動を行っているということは聞いております。

県の管轄域、市の管轄域とありますが、できる限り市の方も関わらせていただいているというような状況でございます。

今後、市の職員が清掃活動を行っていく時に、コロナ禍の状況ということもありますのであまり多くの人数を集めるというのは、はばかられるところがありますが、少し落ち着いてきて活動ができるというようなことでありましたら、若い方々も海の清掃活動や、拾ってきたプラスチックをアクセサリーに変えたりするなど、いろいろ取り組みを行っている団体とも付き合せていただいておりますので、いろんな知見を収集しながら、環境プラス楽しさ、そして学習のような1回で2度3度、いろいろなことを体験できるような体験活動を組み立てていきたいなというふうに思っております。ぜひ地域の方でもご協力をいただければと思います。よろしく願いいたします。

6 地域の防災について（龍之口町自治会）

万衛門川の周辺道路が大体年に1回冠水してしまう。万衛門川にはどのくらいの貯水能力があるのか。近年、線状降水帯による大雨による被害が各地で出ているが、万衛門川周辺地域については、どの程度の雨量の場合にどこまでどのように避難するというのを想定しているのか伺いたい。

また、避難所について、湊1小、2小地区は低地の部分が多く、大規模な津波に見舞われた場合、避難所自体が孤立することが想定されるため、必要物資量についてどの程度想定すればよいか、事前質問したが、各自治会で考えてくださいというような回答であった。市役所は旧勝田地区にあるせいか、当地区と津波に対する考え方に温度差があるのではないか。いつ来るか分からない津波であるが、そこまで考えるのが行政ではないのか。自主防災会の避難所の備蓄について、人数や日数を想定し、何を準備するのか、市でも地域と話し合っ、市で用意する部分と地域で備える部分を示すよう検討してほしい。

（市長回答）

まず、万衛門川の貯留能力がどのくらいあるのかについては、今お答えできませんので、河川課の方から後日、回答させていただこうと思います。

一般論として、1時間に25ミリから30ミリの雨が2時間続くと道路冠水してしまう、または雨水排水がなかなかできなくなってしまうところが市内に数箇所あるのは認識しております。万衛門川は外れてしましますが、高場や大島から中丸川に流していく雨水に関する取り組みについて100mm/h安心プランということで進めています。中丸川で一旦、貯留をして、下流に対して流す量を調整するということになります。

万衛門川の逆流ということに関しては、堤防築堤や排水ポンプ車などの対策をとらせていただいています。龍之口周辺で、年に1、2回程度、流量がはげきれずに冠水があることは把握していますが、どのような対策が取れるかは県と調整し河川課を中心にやっていますので、先ほどのお答えと併せて担当課からご連絡をさせていただきます。

もう一つ、避難所に関してですが、津波についてはハザードマップを出させていただいておりますので、そのハザードマップにかかっている地域というのは津波が来る可能性があると示しております。

それと漁協については津波がおし寄せてきた時に門を閉めるよう、県とも連携をして、水がそれ以上流れないような抑止対策をとっております。

そういった中で、避難所の物資について、まず自主防災会の方でどのくらいどのような備蓄のスペースがあるのか、そういったものが必要なのかお答えさせていただいていますが、市の方も自主防災会とどうすればいいのかということと一緒に考えていくという点は、私の方からも改めて指示をさせていただきます。

もう一つ物資の考え方ですが、現在、基幹的防災備蓄倉庫というものを勝田清掃センター跡地に建設中です。個別の防災倉庫プラス集中的管理の備蓄倉庫を整備し、その組み合わせ

の中で必要に応じて物資を必要な場所に運んでいくというようなことを考えております。これをまずしっかり有効に機能させるということです。大規模災害の時には、物資をいろんなところから運んでこないといけないということで、建設地の前の県道は、重要な物資輸送道路になっていますので、仮に壊れたとしても優先的に直してくれる道路ということで、備蓄倉庫の建設地を選んでいきます。

それとあわせて、空からの物資の輸送ということも今後は考えられます。ヘリだけではなくてドローンも含めてなんですけど、道路が寸断されても、空からある程度落としていくということも今後考えられると思っておりますので、地域の防災備蓄プラスセンターとしての備蓄の機能を強化しているところであります。そのような状況を踏まえて、もう一度地域の方とお話をさせていただきたいというふうに思います。

7 那珂川緊急治水対策及び県道沿いの雑草繁茂について（関戸町自治会）

那珂川の治水については、大谷市長はじめ関係者から、再三、国の方に陳情及び要望していただいた。那珂川沿岸の無堤防地区の築堤について進展があったことに厚く御礼を申し上げたい。また、那珂川緊急治水対策プロジェクトの取り組みについても、河川課に対策推進室という専任の部署を設けていただいたことも感謝したい。

海浜鉄道の高田の陸橋駅の清掃を柳が丘自治会、田中町自治会と関戸町自治会と3自治会でやっているが、県道沿いの雑草について県の見解は、除草を行うのは道路境界から70cmとのことである。他市町村から観光に来る方を迎えるにあたり、雑草の繁茂があまり酷いのはよろしくない。市としてご意見あれば伺いたい。

（市長回答）

那珂川緊急治水対策に関してご紹介いただいたようにひたちなか市の河川課に推進室を春から設置をさせていただきました。

無堤防地区5.5kmのうち湊大橋までの3kmは事業化されており、令和元年に水が出た栄町の本部のところは事業化されていませんでした。ここはしっかり対策をとってもらわなきゃいけないということで、要望活動を一生懸命やらせていただきまして、また皆さん方の署名の後押しもあり、事業化に向けて今進んでいるところです。それについては、しっかり実現できるように今後も要望してまいります。

併せて中丸川の監視カメラもつけていただきました。それと常設のポンプも要望しているところで、一つひとつ実現に向けて私も力を入れていきたいと思っておりますので、地元の皆様方の後押しもよろしくお願いいたします。

また、県道の草刈の件、その状況は、橋本自治会長から以前も聞いたことがありますので、認識しております。ここでの答えとしては、県と情報共有をしながら、対応をしていくというような話になります。引き続き、県の方とも市として協議をしてまいりたいというふうに思っております。

(副市長回答)

一般的に県道の道路管理は、歩道から 70cm の草等について刈るということになっています。すべての道路で同じ扱いをしているというふうに認識しております。

その上での話は、景観の話になってきてしまうと思うので、道路管理をしている土木事務所では管轄ではないという話になると推測できます。そうは言いましても、メインの通りぐらいは景観を保つというのは、協議事項になると思いますので、いろんな機会をとらえまして協議させていただきたいと思います。

8 記念事業について（湊中学区地域を住みよくする会）

もうじき市政 30 周年を迎えると思うが、記念事業にどういうことを考えているのか。

(市長回答)

令和元年の市制 25 周年の時には、ロックフェストのコラボレーションの電車を走らせた後、あとは那珂湊支所の方で那波多目功一先生の作品展に先生もお呼びして、ふるさとのことも語っていただくなど、いくつか記念行事をやらせていただきました。今年が 27 年目です。

あと 3 年で 30 周年ということで、私としても 30 年という区切りの中でひたちなか市に生まれた子供たちが、もう子育て世代になってくるわけですので、何かしらの記念の行事をしていきたいと思っています。これは何にも諮っておりません。その時、私も市長職についていれば、そのような希望があります。しかしながら、3 年ということもありますので、具体的に何か動き出しているというわけではありません。

今後の検討事項にはなってくると思いますけれども、旧那珂湊時代にいろいろ考えたことが 30 年経ってどうなのだろうとか、旧勝田の方でもそういうような話があったりとか、各地域であると思いますので、市全体として何をやるかということもあると思いますけれども、各地域で 30 年を記念して、皆さんのこれまでの足跡を振り返り、子供たちにこれからの 10 年、もっと先の未来も含めて、引き継ぎできるようなアイデアがありましたら、ぜひお寄せいただきたいと思っています。

市長まとめ

今日は、観光のお話やお祭りの話などが出るかなというふうに思っていたのですが、いろいろな状況の中で、皆さんの中で消化をしていただいているのかなというふうに思っております。コロナ禍ではありますけれども、基本的に規模を縮小したり、時間を短縮したり、工夫をしながらできることはやっていきたいということで、今市政運営を進めているところです。

ただ一方で、どうしても中止せざるを得ない様々な行事が出ていることも確かでございます。ひたちなか市としてはワクチン接種が全てではありませんけれども、ある程度打てる

人は打っていただくことによって、その人自体も感染しづらくなるし、若しくは重症化のリスクが減っていく。

そして、ある程度、接種者が増えれば、何らかの理由でワクチンを打てない方もかかりづらくなる。いわゆる集団免疫の話ですけども、そういうようになっていくのではないかと思いますので、まず国の方にワクチンをしっかり供給してほしいということをお願いしながら、円滑なワクチン接種を行っていきたいと思っています。

それともう一つは、本当に旧那珂湊は地域の中で顔の見える関係、そういった地域社会を作っていただいおり、ひたちなか市でも誇れる地域だと私は思っております。そういった中で、引き続き子供の見守りの事業も活発にやっけていただいていることは承知しておりますし、また、コミュニティ・スクールという形で学校の運営にも一定の責任を発揮していただくことになっていくと思っておりますので、引き続き地域ぐるみのまちづくりというものを尊重させていただき、そして一緒に作っていききたいというふうに思っておりますので、ご協力をお願いしたいと思います。

教育長まとめ

旧那珂湊については、各校の先生方から素晴らしい地域だと聞いております。今年新しく校長で赴任した先生は、私はここに赴任して、本当に幸せだと思いますと言っておりました。人が温かく、皆様お忙しいのに、子供たちを温かく見てくれて学校を応援してくださることを非常に感謝しておりました。

先ほど、コミュニティ・スクールについてお話しましたが、学校の先生方は自分がそこで生まれ育ったわけではないので、本当に来てから地域を知って、皆さんからいろいろ情報をいただきながら、この地域の子供たちをどのように育てていこうと考えていくのですが、それが良い形でスタートできたから、ますますこれから一生懸命やっていきたいと思っておりますという校長先生が何人もおりましたので、本当に日頃からお世話になっているのだなとつくづく感じました。

本当にありがとうございます。また、これからご迷惑をかけることがあるかと思いますが、私達も一生懸命子供たちを育てるために頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。